

<「知るっば！久留米」 令和3年4月8日(木) 12:30~放送分>

からくり儀右衛門 ～第2回～ 「からくり儀右衛門の青年時代・久留米編」

<ゲスト：久留米市文化財保護課 小澤太郎さん>

坂本 MC (以下「坂本」)

「知るっば久留米」ナビゲーターの坂本豊信です。

今月は、久留米が生んだ発明王『からくり儀右衛門(ぎえもん)』をテーマにお送りしています。

ゲストはこのかたです。

ゲスト:小澤太郎さん(以下「小澤」)

久留米市文化財保護課の小澤太郎です。

よろしくお願いします。

坂本 第2回のテーマは、『からくり儀右衛門の青年時代・久留米編』です。

久留米と言えば、世界的にも絣(かすり)が有名なんですが、

儀右衛門さんは、久留米絣の創始者である「井上传(いのうえでん)」とも

出会っていたそうですね？

小澤 はい。伝さんは、儀右衛門さんよりも11歳年上なんですけど、

伝さんの実家と儀右衛門さんの実家が100mぐらいしか離れてないんですよ。

儀右衛門さんの家は、今は西鉄電車の高架の下になっているんですよ。

線路を作る時に取り壊されてしまったので、石碑だけが残っています。

ちなみに、伝さんの生まれた家は、五穀神社の並びにありました。

坂本 そんな二人が出会ったきっかけというのは？

小澤 当時、伝さんは、絣の紺色の木綿織りに白い斑点を織り出すことに成功していて、

既に評判だったんですよ。

でも、伝さんは飽き足らなくなるんですよ。「もっと工夫したい」ってね。

ぴんぴん飛んでいる白い模様も面白くてウケたんですけど、絵模様を描きたいなと思ったんです。

その時、ちょうど近所に発明が上手な少年がいるということで、

その絵絣をどう作ったらいいか相談したみたいです。儀右衛門さん、まだ15歳の時のことです。

坂本 若いですよ、まだ少年ですよ。

その時、儀右衛門さんはどんなアイデアを出したんですか？

小澤 いやそれが、記録が残ってなくてわかってないんですよ。
でも、完成した絵絣は、ファッションに敏感な当時の女性たちに大評判だったそうです。

坂本 新しいファッションに飛びつくというのは、いつの世も変わりませんね。

小澤 それまでは、儀右衛門さんも筆箱の工夫なんかしていましたので、初めての試みですよ。
それも精魂込めた発明工夫は、びっくりさせるだけでなく、みんなからすごく感謝されるんです。
そういう喜びを知ったというのが大きかったと思いますよ。
ちなみに、当時は特許などありませんので、絣は伝さんが発明した後も
多くの人たちが技術や機械に改良を加えて、現在に至っているわけです。

坂本 なるほど、よくわかりました。
実は私も少し知っているんですけど、実家近くの五穀神社で開かれた大祭では、
からくり人形を披露して人気者になっていたそうですね。

小澤 その時は、近所からたくさんの人たちが集まってくるんですよ。
当時発行された祭礼のパンフレットなんかを見ると、
境内にはたくさんの屋台とか見世物小屋が立ち並んでいたんです。
特に人気が高かったのが、久留米城下8つの町ごとに競い合う、からくり人形舞台だったんです。

坂本 まさに「からくり儀右衛門」という異名は、ここからきたのかなという感じがしますね。

小澤 そうですね。これまでにない水が落下する力を使ったり、水の圧力を使って、人形を躍らせたり、
笛を吹かせたりといった「からくり人形」を出していたと聞いています。
お客さんは、びっくりしたと思うんですよ。
この後、お客さんたちを喜ばせるためにどんどんエンターテインメント性を高めていく、
そんな感じですね。

坂本 やっぱ、お客さんを楽しませるといのが、彼の生きがいというか、
だんだんとそうになっていったという感じでしょうね。
江戸時代というのは、色々と移動の制限もあったと思うんですが、
儀右衛門さんはそういう「からくり」を使って各地を行脚したというお話があるんですが、
いかがですか？

小澤 25歳になって、地元だけじゃなく色々な所でみんなに見てもらいたいと思ったんでしょうね。
家族とか弟子を連れて、佐賀とか熊本、大阪、京都、関西から江戸まで向かうんです。

坂本 久留米のからくり舞台とは、何か違いとかあったんでしょうか？

小澤 やはり演出をパワーアップしていたみたいですね。
入り口にもからくりを置いたり、舞台にもからくりを置いて、通路にも置いたりして、
来館者の関心を引き付けようとしたみたいですよ

坂本 ちょっと前哨戦みたいなことがあってということですかね。
舞台でからくり人形を動かすだけじゃなく、総合的にやったということですよ。
舞台はどんな感じだったんですか？

小澤 舞台が始まると、最初に舞台に出てきてお辞儀をし、開催の口上を述べる人形とか、
弓曳童子の矢が的に当たると音楽が流れる仕掛けとかがあったみたいですね。
お客さんは非常に喜んで、大盛況だったと聞いております。

坂本 ヘー、なかなかグレードアップした感が半端ないですね。
今見ても面白いでしょうね。現代の我々でも楽しめそうな、そんな気がします。
でも、成功ばかりじゃないだろうし、失敗したことはなかったんですか？

小澤 関西での興行が大当たりで、50日間のロングラン公演をしたんですけど、
それでからくり人形界の大スターになったんですよ。
その後、勢いそのままに江戸まで向かうんですけど、
長雨にたたられて全くお客さんが入らなかったという失敗談もありますね。

坂本 さすがのからくり人形も、天気には勝てなかったんですね。

小澤 まさしく。その後、打ちひしがれて、久留米にまた帰ってきたようですね。

坂本 はい、お時間が来たようでございます。
文化財保護課の小澤太郎さん、興味深いお話をありがとうございました。
次回は、からくり儀右衛門こと田中久重が、大阪・京都で活躍したお話です。
お楽しみに。